

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成22年4月13日

【評価実施概要】

事業所番号	4072500467
法人名	有限会社 KSカムレイド
事業所名	グループホーム松の実
所在地 (電話番号)	福岡県大川市大字向島2665 (電話) 0944-86-7286
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成22年3月5日

【情報提供票より】(平成22年1月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 4月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	24 人 常勤 18人, 非常勤 6人, 常勤換算 20.4人

(2) 建物概要

建物形態	併設 <input checked="" type="checkbox"/> 単独 <input type="checkbox"/>	新築 <input checked="" type="checkbox"/> 改築 <input type="checkbox"/>
建物構造	木造	
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 840 円		

(4) 利用者の概要(平成22年1月28日現在)

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名
要介護3	3 名	要介護4	2 名
要介護5	4 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84 歳	最低 66 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	酒井小児科内科医院、福田病院、中島歯科、高木病院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、以前地域に根ざした病院として開業されていた建物を改築して誕生した。ホーム名の「松の実」は前の病院の名前から一文字取った「松」と「笑顔のたえない、微笑があり、実のなるようにとの思い」から付けられている。ホーム近くには「東洋一の昇開橋」がある。ホームの玄関を入ると利用者と一緒に作られた、さげもん、手作りの小物がたくさんの飾られ、訪問者を温かく迎えてくれる。2階へ向かう階段の壁には、地域の行事の写真や地元の懐かしい写真が飾られている。職員は理念の思いを大切にしており、利用者と料理や買い物、近くの公園へ散歩を行っている。利用者の一人ひとりの力を活かすケアを実践しており、利用者、職員とも笑顔のたえないホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価での改善課題について、職員へ報告し改善に向けて取り組んでいる。全職員は評価の大切さを認識しており、利用者へのサービスの向上に活かされている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価を全職員で取り組み、介護支援専門員がまとめている。自己評価を通じて自己の向上につながるよう取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者代表、家族代表、民生委員、地域住民代表、市職員、ホーム管理者・職員の出席のもと2ヶ月に1度運営推進会議を開催している。外部評価の結果や利用者の暮らしぶり等を報告している。参加者から介護相談実施の要望を受けたり、地域の情報を聞く等してサービスの向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	苦情箱を設置している。訪問時に日常生活の状況や健康状態を説明し、家族からの意見を尋ねたりしている。訪問の少ない時は何か意見はないか自宅へ利用者と共に訪問し意見を貰っている。年に2回家族会を行い、食事を摂りながら意見や要望を聴き運営へ反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会へ加入している。職員は地域の祭や近所の公園での桜の花見、清掃活動へ利用者と積極的に参加している。市からの依頼の介護教室を通して地域との交流に努めている。運営推進会議を通じた取り組みにより、地域住民の避難訓練への協力が得られるなど地域との連携を大切にしている。

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念「活き活き悠々と地域の中でその人らしく過ごしましょう」を全職員で考え作り上げている。利用者は地域の中の住民であり、地域との関わりの中で生活が継続できることを大切にして、日々ケアに努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念をホーム内のたくさんの場所に掲示している。管理者と職員は、毎朝のミーティング時に理念に触れ、利用者が活き活きと過ごせることが出来ているかを確認し合い、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入している。地域での清掃活動へ職員と一緒に利用者も参加したり、地域の祭りや近くの公園に桜の花見にも出かけ近隣の方々と接する機会を作っている。大川市からの依頼の介護教室を通して地域との交流に努めている。玄関には地域の方からもらった沢山の小物が飾られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で取り組み、介護支援専門員がまとめている。自己評価を通じて自己の向上につながるよう取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者代表、家族代表、民生委員、地域住民代表、市職員、ホーム管理者・職員の出席のもと2ヶ月に1度運営推進会議を開催している。外部評価の結果や利用者の暮らしぶり等を報告している。参加者から介護相談実施の要望を受けたり、地域の情報を聞く等してサービスの向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険更新手続き等で市に訪問した際に、ホームの様子やサービスの提供に関わる相談を行っている。場合によっては、電話でアドバイスをもらうこともある。また、市が依頼した介護教室を開催するなど、市との関係作りを積極的に行い協働している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在権利擁護に関する制度の利用者はいない。状況に応じ、家族へ利用開始時やホームの行事時、また、家族の訪問時に制度の説明を行っている。職員は年2回の大川市人権週間の講演会に参加し、ホームで他の職員に伝達研修を行なっている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日常生活状況や健康状態は訪問時や電話にて説明したり、ホーム便りを活用して報告している。身体状況に変化が生じた場合は必要に応じて管理者や介護支援専門員が来訪時や電話等で報告している。金銭管理は出納帳を確認してもらい定期的にサインを貰っている。職員の異動等に関して家族への報告がされていない。	○	グループホームは職員と利用者が一緒になって家族的な生活を行うという特性上、ホーム便りを活用するなどして職員の異動等の報告を家族になされることに期待したい。
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を設置しているが利用はされていない。家族の訪問時に意見や苦情を尋ねている。家族の訪問が少ない時は、利用者と一緒に自宅を訪問して意見等を聴いたりしている。年に2回家族会を行っている。食事を摂りながら意見や要望を聴き運営に反映させている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	毎月ユニット間の異動が行われている。異動後も利用者へのダメージを防ぐため毎朝の挨拶を行っている。離職者は少なく、入職時は1ヶ月間馴染みの職員と共に働きながらの引継ぎ期間を作り、利用者へ不安を与えないよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員は20代から60代後半まで幅広く採用されている。外国人介護職員の採用を行っている。職員の能力を活かし、飾り付けが上手な職員にはホームの飾り付けを全面的に任せている。管理者は職員の休暇取得希望に対して柔軟に応じており、社会参加のための勤務調整を行っている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員は年2回の大川市人権週間や男女共同参画等の研修に参加している。カンファレンス時に研修報告を行っている。管理者は職員に対し、利用者への言葉遣い等で気付きがあればその都度指導を行っている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は入職時より段階に応じて育成する取り組みを持っている。法人外の研修の機会を利用して職員の質の向上に取り組んでいる。研修案内を掲示し、参加を募っている。研修費用はホームが負担している。研修の際は報告書を作成し、全職員に報告がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内に連絡協議会はない。他のグループホームへの相互訪問を行いながらサービスの質の向上させていく取り組みをしている。管理者は現在市内の協議会の立ち上げを検討中である。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	いきなりのサービス利用は基本的には行っていない。利用開始前に1週間の体験利用を行っている。その際、ホームに馴染むよう一緒に昼食を摂ることで、馴染みの関係づくりの支援をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から地域の祭や行事を学ぶことがある。職員は料理の味付け、掃除等を利用者と一緒に行なうことで、普段から生活の知恵を利用者に教えてもらう場面が多く、共に支えあう関係となっている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始時に、本人や家族より生活状況や希望、意向等の情報を聞き取っている。思いや意向の把握が困難な利用者には、日々の関わりの中から会話や表情からどんな時に笑顔になるかなど常に把握することに努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員より本人の状況を聞き取り、介護支援専門員が原案を作成している。かかりつけ医の往診の時に医療面での意見を求めている。カンファレンスにおいて全職員の意見を聞き修正等行ったうえで、本人・家族の同意を得ている。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月毎にモニタリングを行い、介護計画の見直しを行っている。利用者・家族の希望、状態に変化が生じた場合には、その都度関係者と話し合い現状に即した介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	大川市からの依頼で介護者教室を開催している。馴染みのクリーニング屋に行くときに同行したり、家族の訪問が少ない利用者の自宅と一緒に訪問したりしている。入院中の利用者の洗濯物を、家族が取りに行けないときに職員が代わりに取りに行っている。また、家族の宿泊や家族への食事の提供も希望により可能である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の要望に応じて入居前からのかかりつけ医を基本としている。基本的には家族に受診の支援をお願いしているが、家族が病院受診に付き添えないときは、職員が付き添い受診結果は随時家族に報告している。ホームの協力医療機関からも往診がある。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時に、「ターミナル同意書」にて本人、家族に説明し意向を確認している。ターミナルを希望されていても終末期が近づくと病院を希望される事が多い。これまでに看取りは無いが、本人や家族の希望があれば、対応できる体制が出来ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	方言や馴染みのある下の名前で呼んでいるが、尊厳を損ねるようなことはない。個人の記録はフェイルし、職員以外の者の目に触れないよう保管されている。職員採用時に個人情報の保護に関する誓約書を取っている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝遅く起きる利用者へは、起床してから朝食を提供したり、夜なかなか眠れない利用者には、職員と一緒にお茶を飲んだり話しをしたりしている。今日は、何をしたいのか、何を食べたいのかなど利用者一人ひとりの希望を聴いている。また、本人の希望により買い物や散歩にも出かけている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は、野菜の下ごしらえを包丁を使って手際よく行っている。また、使い慣れた箸や食器を使用している。食事は同じテーブルで利用者と職員と一緒に同じ物を食べ、家庭的な雰囲気である。誕生会には手作りケーキで祝い、そうめん流しなど行って季節感を取り入れた工夫がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間・回数などは、利用者の希望を聴き支援している。庭で取れたゆずを使ってのゆず湯などで入浴を楽しむ工夫をしている。また、家族と定期的に温泉に行く利用者もいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホーム内に飾られている数々の小物を職員と一緒に作製している。米を研ぐ、料理の下ごしらえ、洗濯物を干す、たたむ、掃除など利用者一人ひとりの力を活かし発揮できる場面を作っている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のいい日は、散歩や買い物に行く。ファミリーレストランやうどん屋さん等の外食や季節ごとの花見、さげもん祭りや地域のお祭りへは全員で出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中施錠しておらず自由に出入りできるようになっている。玄関などの出入口にチャイムや鈴をつけるなどして、出入りが分かる工夫をしている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急連絡網やマニュアルがあり、防災業者立会いでの消火・避難誘導訓練が行われている。災害に備えて防災袋が各部屋に準備されており、飲料水や食料の備蓄もある。スプリンクラーの設置が予定されている。運営推進会議で地域の協力も得られているが、夜間を想定した避難訓練は行われていない。	○	夜間想定避難誘導訓練を行い、昼夜を問わず利用者が安全に避難できるよう全職員が具体的な避難方法を身につけられることに期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表があり食事摂取量・水分量の把握が出来ている。摂取状態に応じて、ミキサー食、刻み食などで対応しており、献立は管理栄養士に依頼されている。夜間の水分摂取が必要な方には、ペットボトルをベッドサイドに備えている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関を入ると利用者と一緒に作られた、さげもん、手作り小物などが飾られており、訪問者を温かく迎えてくれる。リビングから調理をしている様子が見られ、利用者はお話をしたり体操をしたりと思い思いに過ごされている。廊下のコーナーには炬燵も準備されており居心地の良い共用空間になっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室の入り口には、本人の住所氏名が書かれたプレートがさげられている。家族の写真を飾ったり、使い慣れたベッドや寝具、トイレ、鏡台などが持ち込まれ居心地よく過ごせる工夫がされている。</p>		